

令和 2 年度特別支援教育に関する実践研究充実事業
 (新学習指導要領に向けた実践研究)
 成果報告書 (概要)

受託団体名
高知県教育委員会

1 指定校の一覧

設置者	学校種	課程又は障害種	学校名 (ふりがなを付すこと)
高知県	特別支援学校	病弱	高知県立高知江の口特別支援学校
高知県	特別支援学校	聴覚	高知県立高知ろう学校
高知県	特別支援学校	知的	高知県立日高特別支援学校

2. 事業の実績

(1) - ①事業の実施日程【高知江の口特別支援学校】

実施時期	実施内容	評価事項
令和 2 年 4 月	<ul style="list-style-type: none"> ○前年度の取組で得られた成果と課題を教員間で共有し年間研究計画を確認 ○児童生徒の実態把握 	
令和 2 年 6 月～7 月	<ul style="list-style-type: none"> ○授業研究 (第 1 回公開授業 全教員) と「学び方シート (試案)」、授業評価票を活用した振り返りの実施 	<p>授業評価 (自己評価、参観者評価) と学習者評価を行い、ICT 機器の活用に関する肯定的意見が多かった。</p> <p>学校生活アンケート (第 1 回)「勉強はわかりますか」の回答で、分かるが 25.0%、まあまあ分かるが 71.4%であり、肯定的な回答が前年度よりも増加した。</p>
令和 2 年 8 月 7 日	<ul style="list-style-type: none"> ○教育課程研究集会 (病弱部門) の実施 「病弱教育における主体的・対話的で深い学び」 関西学院大学 教授 丹羽登 氏 研究発表 (中学部)、「主体的・対話的で深い学びの充実に向けて」グループ協議 ○病弱教育における「主体的・対話的で深い学び」に関する校内研修 実践事例報告 (小学部、高等部) 「発達障害の児童生徒を支援する『主体的・対話 	<p>外部専門家 (大学研究者) による講評から、2 学期に向けての課題を整理することができた。</p>

	<p>的で深い学び』について～ICT 機器の効果的な使い方～」</p> <p>関西学院大学 教授 丹羽登 氏</p>	
令和2年8月27日	<p>○発達障害の特性と ICT 機器等を活用した指導に関する事例検討①</p> <p>高知大学教職大学院 教授 松本秀彦 氏</p>	
令和2年9月～11月	<p>○授業研究（第2回公開授業 全教員）実施</p> <p>○第2回公開授業について、「学び方シート（試案）」、授業評価票を活用した振り返りを実施</p>	<p>授業評価（自己評価、参観者評価）と学習者評価から、ICT 機器の効果的な活用について確認できた。</p>
令和2年9月29日	<p>○発達障害の特性と ICT 機器等を活用した指導に関する事例検討②</p> <p>高知大学教職大学院 教授 松本秀彦 氏</p>	
令和2年10月20日	<p>○発達障害の特性と ICT 機器等を活用した指導に関する事例検討③</p> <p>高知大学教職大学院 教授 松本秀彦 氏</p>	
令和2年11月24日	<p>○発達障害の特性と ICT 機器等を活用した指導に関する事例検討④</p> <p>高知大学教職大学院 教授 松本秀彦 氏</p>	<p>学校生活アンケート（第2回）「勉強は分かりますか」の回答で、分かるが20.0%、まあまあ分かるが73.3%であった。肯定的な回答が前年度よりも増加した。</p>
令和2年12月25日	<p>○研究の成果と課題を整理</p> <p>○WEB会議システムを活用した特別支援教育に関する実践研究充実事業研究成果報告会を行い、広く県内に研究成果を発表</p>	<p>研究成果報告会で外部専門家（大学研究者）より、学び方シートと授業評価票が連動化している、ICT 機器活用が児童生徒の主体的な学びにつながっている、「授業内容シート」は、学びの目的に合わせて ICT 機器やアプリを選ぶ資料になる等の講評をいただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、実践研究報告について満足63.8%、やや満足34.8%であった。</p>
令和3年1月28日	<p>○特別支援教育に関する実践研究充実事業指定校連絡会（WEB 会議）で3年間の取組における成果と課題について報告、協議</p>	<p>学校評価アンケートでは、教材等の工夫について、児童生徒の肯定的な回答は、93.3%であった。</p>

令和3年1月～2月	<p>○研究のまとめと次年度に向けての研修計画の作成</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの「学び方シート2020版」、「授業内容シート2020版」の作成</p>	
-----------	---	--

(1) - ②事業の実施日程【高知ろう学校】

実施時期	実施内容	評価事項
令和2年4月	<p>○前年度の取組で得られた成果と課題を全校で共有し、年間研究計画を確認</p> <p>○外部専門家との研修会の内容の詳細検討</p>	<p>中学部では標準学力検査GRTを実施し、全体的に概ね満足という結果が得られ、学力の定着が確認できた。</p>
令和2年5月26日	<p>○手話研修会①を実施</p> <p>みることば手話・オリエンテーション</p> <p>手話検定の単語と文章の確認</p>	
令和2年6月16日	<p>○手話研修会②を実施</p> <p>手話テキスト・手話テキスト動画</p> <p>○「主体的・対話的で深い学び」に関する公開研究授業を実施</p>	
令和2年7月3日	<p>○ICT研修会を実施</p> <p>UDトークの使い方</p> <p>有限会社 高松ソリューション（難聴者自立支援周辺機器販売・リース） 鎌田浩二氏</p> <p>○専門性向上研修を実施</p>	<p>教員、保護者共にUDトークを使った情報保障について学ぶことができた。</p>
令和2年7月27日	<p>聴力測定法（オーディオグラム）</p> <p>○各学部で1学期の成果と課題のまとめ及び2学期以降の研修計画を確認</p>	
令和2年8月21日	<p>○共催講座＜特別支援教育講座＞を実施</p> <p>「主体的・対話的で深い学びに向けて～学習評価と授業改善～」筑波技術大学産業技術学部 教授 長南浩人氏</p>	<p>授業場面での具体的な事例から学ぶことができ、外部参加者及び聴覚障害教育の初心者にとっても理解しやすい内容となり、研修会の目的を果たすことができた。</p>
令和2年8月26日	<p>○手話研修会③を実施</p> <p>避難訓練と災害時の手話（寄宿舍と合同）</p>	
令和2年9月25日	<p>○特別支援学校教育課程研究集会（聴覚障害部会）を実施</p> <p>実践発表・・・幼稚部、高等部</p> <p>「ICTを活用したコミュニケーションと授業づくり」</p> <p>筑波技術大学産業技術学部</p> <p>准教授 若月大輔氏</p>	<p>外部専門家に授業ビデオを見てもらい、助言を受けることができた。高知県のICT機器活用状況の実態や有効な事例と教材について知ることができた。</p>

令和2年9月29日	○手話研修会④を実施 手話テキスト、30秒スピーチ	
令和2年10月8日・9日	○第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会） 記念講演「ろう教育で大ボラを吹く」 東京学芸大学教授 濱田豊彦氏	全教員がオンラインで記念講演や授業研究会に参加することができた。
令和2年10月13日	○手話研修会⑤を実施 手話テキスト	
令和2年10月19日	○専門性向上研修を実施 聴力測定法（演習）	
令和2年10月30日	○手話研修会⑥を実施 日常生活や社会生活に必要な手話（寄宿舍） ○「主体的・対話的で深い学び」に関する公開研究授業を各学部で実施	
令和2年11月12日	○教科・領域別研究会を実施 ・全教科領域 ・休校対策 ・ホームページ活用 ・情報保障	各教科における ICT 機器の活用について情報交換を行い、休校対策やホームページの活用など新たな課題についても検討することができた。 生徒アンケートでは、平成30年度に比べて、「先生たちは、授業がよく分かるように工夫して教えてくれている」の項目で、「そう思う」と回答した児童生徒の割合が73%で、9ポイント増えた。 教職員アンケートでは、「学校は、主体的で対話的な学びを大切にした授業づくりをしているか」の項目で、「そう思う」と回答した人が22%で13ポイント増えた。
令和2年11月13日	○手話研修会⑦を実施 日常生活や社会生活に必要な手話（寄宿舍） ○学校評価アンケートを実施	
令和2年12月25日	○手話検定①を実施 （単語の読み取り、短文の読み取り） ○WEB会議システムを活用した特別支援教育に関する実践研究充実事業研究成果報告会を行い、広く県内に研究成果を発表	取組について報告し、成果と課題を共有することができた。 中学部では、教研式 Reading-Testを実施し、学年相当の読書力が身に付いていることが確認できた。

令和3年1月26日 令和3年1月28日	○手話研修会⑧を実施 式典（卒業式、入学式）の手話 ○ICT機器活用事例集をまとめた ○特別支援教育に関する実践研究充実事業 指定校連絡会（WEB会議）で3年間の取組にお ける成果と課題について報告、協議	35 事例をまとめることが できた。
令和3年2月3日 令和3年2月16日	○手話検定②を実施 （コミュニケーション） ○令和2年度校内実践報告会を実施 研究の成果と課題を整理 ○「高知県立高知ろう学校授業のスタンダー ド」をホームページ上で公開し、発信	外部専門家に検定員を依 頼し手話検定を実施した。全 員が一つ上の級を取得した。 手話検定が第11回目になり、 手話ができないという教員 がおらず、幼児児童生徒にと って手話でコミュニケーション できる環境になっている。
令和3年3月	○「主体的・対話的で深い学び」につな がる実践を蓄積（指導案やワークシートを 電子データで保管し、共有） ○研究の成果及び課題のまとめ	

(1) -③事業の実施日程【日高特別支援学校】

実施時期	実施内容	評価事項
令和2年4月17日	○前年度までの取組で得られた成果の確認及び 年間計画について全校で確認	
令和2年6月12日 令和2年6月～7月	○高知県立大学石山貴章教授を招き、知的障害 特別支援学校における「主体的・対話的で深い学 び」の実現に向け、「新・学習過程分析表(2020)」 を活用して授業分析、評価を行う研修を実施 ○研修内容をもとに、各学部で研究授業、公開授 業を実施し、管理職による指導・助言を実施	「新・学習過程分析表 (2020)」を活用することで、 「学習活動」や「手立て、留 意点」の内容に「主体的・対 話的で深い学び」を意識し て、「主体的な学び」「対話的 な学び」「深い学び」を位置付 けた「学習指導略案」を作成 し、研究授業・公開授業を実 施することができた。
令和2年7月～8月	○学部研究会等で1学期の振り返りと反省を行 い、成果と課題を確認	研究授業、公開授業を通し て「新・学習過程分析表 (2020)」は、支援度の高い児 童生徒に対応できることが 確認できた。 事後協議に寄宿舎指導員

令和2年8月5日	○高知県立大学石山貴章教授を招き、教育課程研究集会(知的障害部会)及び校内研修会を実施	<p>が参加し、新しい目線で討議することができた。寄宿舎指導員から日頃の学校での寄宿舎生の学習の様子がよく分かったと評価があった。</p> <p>石山教授による講評では、授業の中で児童生徒の成長につながる学習評価を大切にして学習指導略案の作成や指導に取り組む必要がある等の助言をいただいた。</p>
令和2年9月～12月	○1学期に実施した研究授業、公開授業の反省をもとに、各学部で研究授業、公開授業を実施し、管理職による指導・助言を実施	<p>実態把握に基づいた目標設定や手立てを講じ、「主体的・対話的で深い学び」について学習活動を整理することで、即時評価につながる内容が増え、児童生徒の成長を確認できる授業が多数実施できた。</p>
令和2年12月25日	○高知県立大学より石山貴章教授を招き、知的障害特別支援学校における「主体的・対話的で深い学び」の研修会を実施	<p>授業の振り返りを重視した丁寧な授業が展開されており、学習指導略案への記載項目である児童生徒の評価を活用することにより「指導と評価の一体化」が確認できたとの評価をいただいた。</p>
令和3年1月～2月 令和3年1月28日 令和3年2月26日	<p>○研究成果を実践集録にまとめた</p> <p>○特別支援教育に関する実践研究充実事業指定校連絡会(WEB会議)で3年間の取組における成果と課題について報告、協議</p> <p>○高知県立大学より石山貴章教授を招き、今年度の研究について校内研究会で発表</p>	<p>「新・学習過程分析表(2020)」によって方法が明示化されていることで、一人一人の教員の指導水準が維持されているとの講評をいただいた。</p> <p>3年間の実践研究を通して、児童生徒の立場に立った授業づくり、授業改善を進めてきていると評価をいただいた。</p>
令和3年3月	○研究の成果と課題等についてのまとめ及び次年度の研修・研究計画を作成	

(2) 研究課題

「主体的・対話的で深い学び」の実現には、障害種別ごとの特性などを踏まえる必要があることから、その捉えや、何をねらいどのように授業を展開するのかなど、実践研究を通して明らかにしていく。

(3) 研究の概要

平成30年度から特に先導的な実践が必要と考える病弱・聴覚障害・知的障害の特別支援学校3校を研究指定校とし「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた実践研究を行ってきた。研究三年次は、学習指導要領に示されている資質・能力と関連付けながら、各研究指定校で組織的な授業改善に継続して取り組んだ。12月にはこれまでの実践研究の成果について、研究成果報告会を開催した。3月に各研究指定校の実践を集約し、実践事例集を作成した。

【高知江の口特別支援学校】

病弱教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点から、全教員がICT機器を活用した公開授業を実施し、授業改善に取り組んだ。外部専門家の助言を得ながらICT機器事例を蓄積し、児童生徒の学び方についてまとめた「学び方シート（2020年版）」を作成した。

【高知ろう学校】

聴覚障害教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点から、児童生徒の「分かる」「できる」を大切に授業改善に取り組んだ。手話力向上プロジェクトでは、教員を対象に8回の手話研修会を実施と2回の手話検定を実施し、手話に関するDVD教材を作成した。ICT推進プロジェクトでは、「高知ろう学校授業のスタンダード票」を使用して聴覚障害教育の専門性と教科学習についての基本事項を徹底して授業改善に努め、ICT機器活用事例を蓄積した。

【日高特別支援学校】

知的障害教育における「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善に、「新・学習過程分析表（2020）」や「事後協議シート（2020）」を作成し、活用した。昨年度までの「生活単元学習」に加え「教科」や「作業学習」に対象の授業を広げて取り組み、実践事例を蓄積した。

(4) 研究の成果

①個々の実態や障害特性に応じた取組について

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の取組は、個々の実態や障害特性を踏まえる必要がある。3年間の研究から、個々の実態や障害特性に応じた授業改善に関する工夫の多くは、これまで各学校が実践で蓄積してきた工夫と共通していた。「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善においても、各学校がこれまで大切にしてきた個々の実態や障害特性に応じた授業づくりが基礎となることには変わりはないことが分かった。

②ICT機器の効果的な活用について

「分かる」「できる」環境を整える手立てとして、ICT機器を効果的に活用することで学習内容や学習過程を視覚化し、児童生徒自身が理解できたことが、主体的な学習への後押しとなり、更なる学びに向かう動機付けにつながった。

③授業改善ツールによる組織的な取組について

個々の教員が考える「主体的・対話的で深い学び」について繰り返し各校で検討し、作成している。これらの授業改善ツールによって、各校における「主体的・対話的で深い学び」の捉えが可視化できたことが児童生徒理解を深める共通の物差しとなり、教員間の共通認識を形成し、授業改善を組織的に推進するために効果的であった。

(5) 課題と今後の方策

【課題】

研究三年次は、学習指導要領に示されている資質・能力をと関連付けながら実践を行ってきた。指導に多くの工夫がされた一方で、「何ができるようになった」のかを評価するためには、より一層指導と評価を一体化させ、育てたい資質・能力を計画段階でより明確にするとともに、評価のうち定量化できるものは数値化するなど、何を学びどのように評価していくのかについては、今後更なる検討が必要である。

ICT 機器の効果的な活用については、教員による提示型の活用が多く、児童生徒自身が操作し活用することに課題を残した。今後、GIGA スクール構想実現に向けて、児童生徒に一人一台の情報端末が整備されることから、変化の大きな時代に生きる力として、児童生徒の情報活用力を育成していくことが今まで以上に重要になってくる。そのためには、学校生活で日常的に児童生徒が ICT 機器を操作し活用する、新しい授業スタイルに転換していくことが必要である。

【今後の方策】

今後は、作成した実践事例集をホームページにも掲載して周知するとともに、特別支援学校のセンター的役割の中で地域支援に活用し、高知県の特別支援教育全体の専門性を向上させるために役立てていく。

また、遠隔開催での研究成果報告会や指定校連絡会で蓄積した方法を取り入れ、特別支援学校間や地域の小・中学校と実践を共有できるネットワークの形成に ICT 機器を活用することについても、今後整備していきたい。